

防災啓発 思い継ぐ

先月死去 田井晴代さんから教え

徳島市高生が研究活動

徳島市立高校2年の女子生徒5人が、過去の南海地震を記録した古文書「震潮記」を現代語訳した田井晴代さん(2月14日死去、享年84)、海陽町実喰浦の教えを生かした防災研究に取り組んでいる。5人は、昨年12月に田井さん宅を訪れ、地域ぐるみの津波対策の大切さを学んだばかり。突然の訃報に驚きながらも「県民への防災啓発に情熱を注いだ田井さんの思いを引き継ごう」と決意を新たにしている。



故・田井晴代さん

5人は、徳島市立高校がある沖洲地区の震災後の復興計画作りをテーマに昨年7月から研究を始めた。前年の2年生が進めてきた、震潮記に書かれた津波避難時の教訓を同地区に生かす研究を引き継いだもので、震潮記について学ぶため昨年12月29日に海陽町の田井さん宅を訪ねた。

田井さんは震潮記を研究していることを喜び、貴重か」と話し合った。

な原本を見せてくれたり、一緒に実喰地区の津波避難路を歩いたりしながら「常に震災を意識して訓練を怠らないように」「災害に備えて日頃から住民が交流する」ことが大切だ」などと教えてくれた。

17日、京大での大会で発表



田井晴代さんから学んだことを生かした防災研究に取り組む徳島市立高生一同校

今後は住民の意見聴取を経て研究成果をまとめ、17日に京大(京都市)で近畿の高校生らが科学研究成果を競う大会に出場。震潮記の記述や田井さんから学んだ津波防災の心

構え、住民を交えた復興計画作りの重要性などを紹介する。

(佐藤亮)